

農家は黙っていられない

市内で農業者集会相次ぐ

ミニマムアクセス米や四年連続の豊作でコメの需給が大幅に緩和し、加えて自主流通米価格も下落、稲作経営が不安に見舞われている中、農業者が集まり、打開策を模索しようという農業者集会が市内で相次いで開催されました。

十月三十一日にはカルチャーセンターで、市や市農業振興協議会などによる「米、減反を考える農業者集会」が開催されました。シボジウムでは、「今後の本市のコメづくりを展望する」をテーマに、市長や農協組合長、市内農業者などがパネルディスカッションを開催。坂上農協組合長は「コメをいかに減らすかを考えれば、輸入米を減らすしかない。そのため運動を勝っても負けてもやらなければならない」、竹内市長は「農

業には公の要素があると考える。環境問題にせよ、農業と行政が共生していく形にしなければならぬ」、市内農業者は「原宿のネスバスで、イヤリングをした若い女性相手にコメが売れるのか。きちんとした戦略が必要だ」などとそれぞれ指摘しました。

十一月十五日には農協ドリームホールで三市中蒲農政対策協議会主催による「危機突破三市中蒲農民総決起大会」が開かれ、市内はじめ各地の農業者が結集しました。農業振興のための基本政策の確立と予算措置を要求すること、新食糧法に関する各種補助の拡充を要求することなどを大会スローガンとして確認。政府のコメ政策に対し、農林大臣、大蔵大臣、食糧庁長官らへ要請を行うこととしました。



▲米、減反を考える農業者集会



▲危機突破三市中蒲農民総決起集会

半世紀の重みをかみしめて

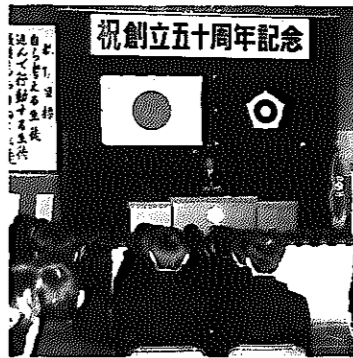
白井中創立50周年記念式典

昭和二十二年に創立された白井中学校が五十周年を迎え、十一月二日同校体育館で記念式典が行われました。

戦後間もない創立時は物資も乏

しく、校舎すら小学校を借りていたという同校。伊藤校長は「三千八百八十一年の生徒が巣立ち、百八十一人の先生が赴任した。在校生の皆さんは五十年間の喜びと悲しみ、先輩たちへの感謝の気持ちを忘れず、当校の生徒像である自ら進んでやり抜く生徒になってほしい」と呼び掛けました。

生徒会長の長沢寿磨君は「五十年という長い歴史に参加できたことを喜んでいます。昭和二十二年、十五人の生徒から始まった伝統を受け継ぎ、伝えていきたい」と力強く述べました。



祝創立五十周年記念

始めてみよう生涯学習

生涯学習体験ひろば

教養、趣味などを市民の求めに応じて指導する有志指導者が企画した体験型の「生涯学習体験ひろば」が、十一月二日に青年教育センターで開催されました。

体験ひろばの講座は環境問題、手話、押し花、そば作りなど十種類。友達同士や親子連れなどが会場を訪れ、各講座を体験していました。人気の高かったそば作り教室では、男性の姿も多く「初めてにしては上出来」と手作りのそばに舌鼓を打っていました。



話し合おう、いじめ撲滅へ

一中「いじめについてのパネルディスカッション」



「いじめをなくそう」と取り組みを続けている第一中学校の生徒会が、十一月十日、いじめについてのパネルディスカッションを開催。さまざまな角度から、全校生徒一体となって、いじめ撲滅への道を探りました。同生徒会が、このような形でいじめを考えるのは二回目。十四人の生徒パネラーがさまざまな意見を出し合いました。

パネラーからは「レッテルを張られた人に対して、他人の目でなく自分自身でその人を知ろうという努力が必要」、「見るだけでは人の悪いところしか見えてこない。もっと良い点を見るよう努力すべき」、「裏切られたと思う人は相手に甘えていて、予想外の反応に裏切りを感じるのではないかなど、たくさん意見、提案が出されていました。オブザーバーとして出席した大塚上越教育大教授は「中学生ながら、物事をよく見つめていてびっくり。いじめをなくすために、皆さんにはしなやかで柔軟な視点を持ち続けてほしい」とアドバイスしていました。

アイデアいっぱいお米料理

ライスクッキングコンテスト



十一月八日、大通地域生活センターで「ライスクッキングコンテスト」が開催されました。これは、米余りと言われる中、お米を使ったアイデア料理を競い、米の消費拡大につなげようと白根市農業振興協議会が主催したもので、予選を勝ち抜いた六組がアイデアいっぱいのお米料理を披露しました。出来上がった料理を審査員と来場者が試食。投票による審査の結果、グランプリには李金順さん(大通南)の「ライスコロッケ&ぎょうざ」が選ばれました。

晩秋の白根路、市内外の健脚どう

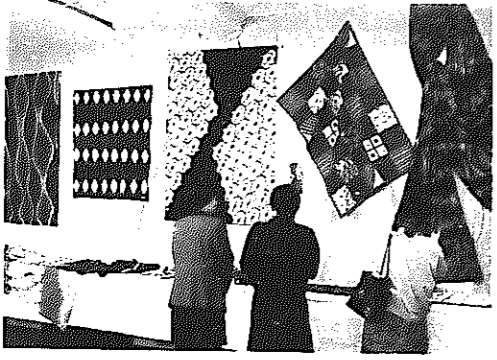
第26回白根市一周駅伝大会

白根市一周駅伝大会が、十一月九日開催されました。今回で二十六回目を迎え、晩秋のイベントとしてすっかり定着したこの大会には、市内はもとより市外からも多数参加があり、十八チームが秋晴れの白根路を駆け抜けました。

この日は午前十時に青年教育センター前をスタート。大通地区から新飯田地区までを回る市内一周五十一・一キロメートル、十区間を、たすきを肩に懸命に走る各選手たち。沿道の観衆からは温かい声援が送られていました。

伝統の技を復興して10年

サークルふきのとう10周年記念作品展



白根絞りのサークル「ふきのとう」の結成十周年を記念した作品展が、十一月一日から三日間、中央公民館で開催されました。ふきのとうは、昭和六十一年に結成。かつて日本三大絞りとして知られ、昭和に入って衰退した白根絞りを復興させました。この秋には、有志が正藍染めを始めるなど意欲的に創作活動に取り組んでいます。作品展には、浴衣やネクタイ、日傘などたくさんの種類が展示され、訪れた人たちは、手の込んだ作品に見入っていました。

